

令和 8 年 3 月 24 日

**「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業
(通称 J-PEAKS)」の取組に関する報告**

日本全体の研究力を牽引する地域中核拠点として、一昨年度、広島大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(通称 J-PEAKS)」に採択されました。

本学は、半導体・超物質、再生・細胞医療・創薬の融合研究領域を中心に、世界的に稀少な紫外線(UV)領域の放射光による可視化を基盤として、研究力向上戦略を推進します。また、「人・知・資源の好循環」のハブとして異分野融合エコシステムを形成し、国際頭脳循環・産業集積を促進します。

地域中核拠点の形成に向けた本学のさまざまな取組みについて、最新情報をお知らせします。

(1) 広島大学 J-PEAKS 国際シンポジウム 2026 を開催しました

広島大学は 3 月 2 日(月)、東広島芸術文化ホール「くらら」にて、「異分野融合研究が拓く新展開 ― 放射光科学を起点として ―」をテーマに「J-PEAKS 国際シンポジウム 2026」を開催しました。

当日は、文部科学省のご来賓挨拶や本学の事業進捗報告、続いて、海外連携校であるアリゾナ州立大学(ASU)から招待講師を招聘し、世界最先端の研究知見を共有いただきました。また、半導体、再生医療、ゲノム編集など本学の重点拠点による研究紹介が行われ、放射光科学を起点とした異分野融合の新たな可能性について活発な発表がなされました。

シンポジウム後の情報交換会では、各拠点のポスター掲示を通じて研究者・学生・産業界の垣根を越えたネットワーキングが行われました。当日は、100名を超える方々にご参加いただき、盛況のうちに閉幕しました。

なお、本シンポジウムは翌 3 月 3 日から 4 日にかけて開催された「The 30th Hiroshima International Symposium on Synchrotron Radiation」との連携企画として実施され、同シンポジウムも国内外から多くの専門家を迎え盛会となりました。本学は今後も本事業を通じ、国際的な研究ネットワークの強化と、イノベーション創出を加速させてまいります。



(2) (AMED) 令和 8 年度「革新的先端研究開発支援事業 ステップタイプ (FORCE)」に採択されました

広島大学大学院統合生命科学研究科の杉 拓磨 特定教授が、医系科学研究科 消化器・移植外科学（大段秀樹 教授）の安部 智之 助教および黒田 慎太郎 助教、病院病理診断科の有廣 光司 教授と共同提案した研究課題が、日本医療研究開発機構（AMED）の令和 8 年度「革新的先端研究開発支援事業 ステップタイプ (FORCE)」(*) に採択されました。

従来の内視鏡は平面的な画像しか得られず、奥行き情報が得られないため、がん切除部位の血流の状態や十分な切除であったかどうかの詳細な確認が難しいという課題がありました。研究チームは、1 回の撮影で三次元画像を取得できる「ライトフィールド技術」を活用し、細い光ファイバーを用いた高精細な 3D 内視鏡の開発を進めています。今後は臨床応用に向けた検証を行い、手術後の合併症の予防や膵臓がんなどの早期発見への貢献が期待されています。

採択課題一覧（AMED 事業のページ）

https://www.amed.go.jp/koubo/03006/01/C_00001.html

(*) FORCE は、AMED CREST や PRIME、JST CREST やさきがけの終了課題のうち、ヒト疾患サンプル等を用いた疾患関連性の検証や、開発した分析法や測定機器の汎用性の検証を行うことを目的とし、医療分野での成果展開を期待できる研究を推進する事業です。

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）とは？

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力を強化することで、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的とした事業。Program for Forming Japan's Peak Research Universities の通称。

広島大学は 2023 年度に採択され、2028 年度までの 6 年間で総額 55 億円の財政支援が予定されています。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室

未来共創科学研究本部

研究戦略部 研究戦略グループ 前田

TEL:082-424-5656

Mail: gakujutu-strategy-gl@office.hiroshima-u.ac.jp